

学友林内で間伐された木の年輪を
見る児童ら
—— 始良町平松



緑のすばらしさ知る

重富小で森林環境教育

始良町の重富小学校は2日、特定非営利活動法人(NPO法人)四季の会などとともに、学校林(約6万平方メートル)で森林環境教育に取り組んだ。森の仕事みや役割を知り、緑を大切に守る心を育てるのが狙い。

6年生と保護者ら約60人が参加。森の大切さを伝える紙芝居や森林クイズなどの後、間伐作業を見学し丸太切りに挑戦した。土井梨菜子さん(11)と坂田明優さん(11)は「のこぎりで木を切っていた昔の人は大変だったんだと思った。貴重な体験ができた」と笑顔。

徳留光郎校長は「子どもたちは森のすばらしさを実感できた様子。今後も教育の教材として学校林を活用していきたい」と話した。